

地域子育て世代への健康教育プロジェクト ～認定こども園や地域住民との協働～

黄波戸航¹、西田千夏¹、古澤朗子¹、阿部宏史¹、岡田順子¹、田中由紀¹、阪上奈巳²、
吉川美和子¹

¹ 藍野大学 看護学部 看護学科

² 藍野大学 医療保健学部 理学療法学科

報告概要

実習関連施設である山善福社会さんすい学園、太田地区福祉委員会と協働し、太田地区在住の乳幼児の保護者向けの健康教室「こどもの健やかな発育のためのあそび・運動・健康の実践講座」を11月、2月、3月に計4回開催した。参加者人数は計20名であり、アンケート結果から今後の子育てに活かせる、講義に満足しているの結果が出た。また、今後聞いてみたいテーマとして、子どもの発達、事故発生時の対応、子どもの睡眠などの意見があり、継続して開催していく必要性も確認できた。

1. はじめに

認定こども園とは、都道府県等からの認可・認定を受け、教育・保育を一体的に行う施設であり、幼稚園と保育所の両方の特徴を併せ持っている。その機能として、就学前の子どもを、保護者が働いている・いないにかかわらず受け入れて、教育と保育を一体的に行う、子育て相談や親子の集いの場の提供等地域における子育ての支援を行うというものがある。そのため、多くの認定こども園では、保育士や調理師といった専門職と共に、看護師が常駐している。

認定こども園といった保育施設で働く看護師の役割として、園内での役割とともに、関連機関との連携、さらには地域の子育て相談など幅広い保健活動が求められている。昨年度、本学実習関連施設である山善福社会さんすい学園や太田地区福祉委員会と協働し、地域に住む子どもや養育者を対象とした子育て健康教育プロジェクト、「遊び」、「靴選び」、「乳児との生活」の3つのテーマで健康教室を開催した。参加者人数は計49名(保護者30名、付き添い子ども19名)であり、アンケート結果から今後の子育てに活かせる、講義に満足しているの結果が出た。しかし、参加者アンケートの自由記載からは、他にも食育や睡眠環境、姿勢などといったテーマが聞きたいといった声もあり、また協働したさんすい学園の看護師や保育士といったスタッフからも、健康教室の継続や茨木市や高槻市にあるさんすい学園と同系列の認定こども園での開催を望む声が上がっていた。

少子高齢化が進む現在において、医療専門職によ

る健康教室の提供は、地域に住む子どもや養育者にとって、健康増進につなげることができる貴重なリソースであり、今年度もテーマや開催方法を吟味し、継続していく必要があると考えた。

2. プロジェクト目的(あるいは目標)

地域住民、認定こども園などのスタッフ、本学教員、学生との交流並びに地域貢献、地域に住む子育て世代の養育者への健康教育による支援

3. 実施内容

1)協働するこども園との調整

実習関連施設である山善福社会さんすい学園の看護師と協働し、健康教室の企画を行った。結果、2025年度内に山善福社会さんすい学園にて、計4回1回1時間程度の実践を盛り込んだ健康教室を開催することとした。

2)健康教室のテーマと講師の選定

さんすい学園に通われている保護者などから聞き取り調査を行い「事故予防」、「乳幼児からの性教育」、「食育」、「靴選び」の4つのテーマを選定した。プロジェクトメンバー内で協議し、藍野大学の教員とさんすい学園スタッフの中から講義担当者を依頼した。

4. 結果・今後の展望

1)健康教室の開催について

健康教室の日程として、第1回を2025年11月29日(土)に、第2回を2026年2月7日(土)に、第3回を2025年2月14日(土)、第4回を2025年3月21日(土)に実施した。詳細な講義テーマ、講義担当者

について表.. 1 を参照。また運営や会場準備、受付には本学教員以外にもさんすい学園のスタッフ、太田地区福祉委員の方々も参加した。

テーマ	講師
第1回 もしもの時に備える！子どもの事故予防とAED体験講座	黄波戸航(看護学科)
第2回 いま聞きたい！乳幼児からの性教育を助産師の立場から こどものなぜ？なに？に、どうする？	前川麻記(看護学科)
第3回 こころと身体を育む”食育”講座～ちょっと聞いてみたい離乳食と幼児食、おうちでごはん～	安岡京花(さんすい学園)
第4回 楽しく遊びながら足を育てる”靴選び”のポイント～姿勢と発達を支えるために～	阪上奈巳(理学療法学科)

2)参加書の属性

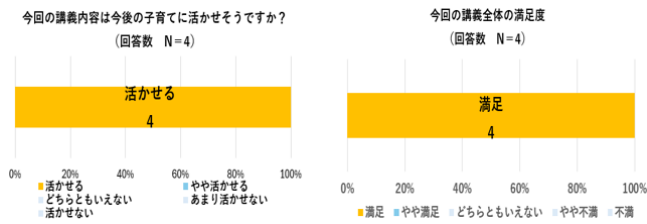
計 4 回の参加者についてあげる。参加者数は 20 名。うち母親 15 名、父親が 1 名、その他が 4 名であった。平均年齢は 41.9 歳(範囲:26～73 歳、中央値:39 歳)であった。また現在認定こども園などに通園していない子どもの保護者も多くいた。

3)アンケート結果

各回のアンケート結果を図と併せて上げる。

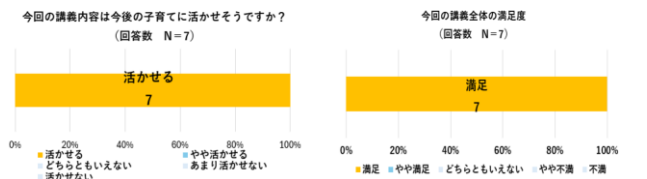
第 1 回「もしもの時に備える！子どもの事故予防と AED 体験講座」

参加者数 4 名、回答数 4 件(回収率 100%)、回答者の年齢:平均 35 歳(範囲:29～39 歳 中央値:36 歳)。



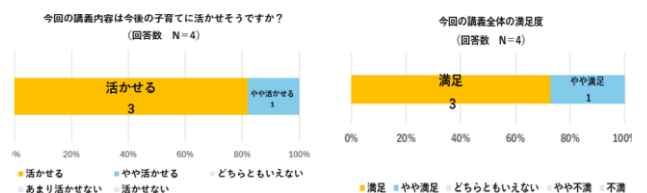
第 2 回「いま聞きたい！乳幼児からの性教育を助産師の立場から こどものなぜ？なに？に、どうする？」

参加者数 7 名、回答数 7 件(回収率 100%)、回答者の年齢:平均 49.5 歳(範囲:26～73 歳 中央値:43 歳)。



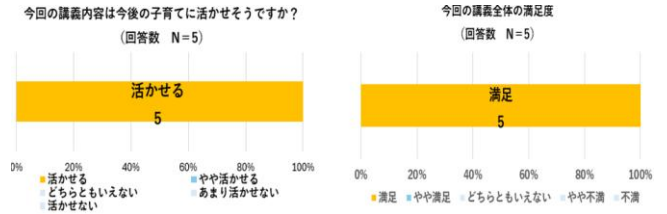
第 3 回「こころと身体を育む”食育”講座～ちょっと聞いてみたい離乳食と幼児食、おうちでごはん～」

参加者数 4 名、アンケート回収数 4 部(回収率 100%)、回答者の年齢:平均 40.5 歳(範囲:36～49 歳 中央値:37 歳)。



第 4 回「楽しく遊びながら足を育てる”靴選び”のポイント～姿勢と発達を支えるために～」

参加者数 5 名、アンケート回収数 5 部(回収率 100%)、回答者の年齢:平均 40.5 歳(範囲:36～49 歳 中央値:37 歳)。



各回の自由記載欄より考えられるテーマのニーズについて、子どもとの関わり方(イヤイヤ期、感情のコントロール)、子どもの発達に関わる内容2件(いやいや期、発育発達について)、睡眠について、水難事故時の対処方法などがみられた。

5. 今後の展望

今回のプロジェクトにより、計 4 回の乳幼児の保護者を対象とした健康教室を開催した。参加者は計 20 名にのぼり、またアンケート結果からも講義内容が今後の子育てに活かすことができ、満足度も高かったことが伺える。プロジェクトの目的も達成できたと考えられる。しかし、今回は本学学生の参加を促せなかったことや、アンケート結果よりまだまだテーマとなりうるニーズが判明したことから、今後も、健康教室を継続していく必要性も考えられた。

最後に本プロジェクトにご賛同いただいた本学教員、ご協働いただいたさんすい学園や太田地区の福祉委員の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

実際の健康教室の様子

